

芦安小学校前期自己評価書

■学校教育目標

郷土を愛する心と夢を育み 未来を拓く人づくり

■評価方法

学校評価の方法として、「Ⅰ. 学校運営・学校経営」、「Ⅱ. 学習指導」、「Ⅲ. 生徒指導」、「Ⅳ. 保護者・地域との連携」、「Ⅴ. 学校の特色ある取組」の5領域を設定し、取り組みの状況・結果を把握する方法としてアンケート（教職員・児童・保護者）を行った。

質問に対しての回答選択肢は基本的に4段階である。

A：そう思う

B：ややそう思う

C：ややそう思わない

D：そう思わない

このうちAとBは肯定的なプラス評価、CとDは否定的なマイナス評価である。

A・B・C・Dのそれぞれの選択肢を点数化し、A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数で割って平均点をもとめた。

・全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は3点以上になり、4点に近づいていく。

・全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は2点以下となり、1点に近づいていく。

教職員数ならびに保護者、児童数ともに、アンケート数は少ないが、2学期以降、共通理解して取り組む必要があることが明らかになったものもある。

■全体評価

アンケート調査の結果から、児童・教職員・保護者をあわせ、すべての項目でプラス評価の傾向となっている。これは芦安小学校の教育活動が、保護者や地域の理解と協力を得ながら、効果あるものとなっておこなわれていることや、児童が充実感と向上心を持って学校生活を送っていることが、全体の傾向として見てとれる。

児童のアンケートの結果から、多くの児童が、「学校は楽しい」（評価3.5）、「先生は、声をかけてくれたり、話をしてくれる」（評価3.6）、「授業は楽しい」（評価3.3）と肯定的な回答をしている。また、教職員の自己評価アンケートにおいても、「児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めている」（評価3.6）と高い評価であった。しかし、児童の中に少数ではあるが否定的な評価もある。このことには、引き続き留意し、全教職員で取り組んでいかなければならない。

今年度から「小中一貫の取組」についての評価項目を児童・保護者アンケートに新設した。児童・保護者のいずれも肯定的評価であった。本校の特色でもある小中一貫した教育活動と、地域連携を柱とした「芦安郷育」をこれからもより一層推進していきたい

と考える。

■<これからの重点課題>

①小規模校のよさを活かし、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りながら、児童が主体的、意欲的に学ぶ教育活動の充実を図る。

児童アンケートの結果から、「学校が楽しい」（評価3.5）、「授業がわかる」（評価3.6）という答えが多く、昨年度後期の結果と比べても、学校全般と授業についての評価はすべての項目で評価が上がっている。校内研究のテーマ「生き生きと自己表現ができる児童の育成～コミュニケーション能力を高める、小中一貫型をめざした英会話科授業の実践～」を中心に、学級、低・中・高ブロック、全校一斉と学習形態を工夫しながら、全職員で児童一人ひとりに対する「きめ細かな指導」をおこなってきた成果と考えられる。

今後も、小規模校という本校の利点を生かし、一人ひとりの実態に合った指導を工夫しながら基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていききたい。また、本校には小中一貫した「学びのルール」と主体的・対話的な学びのある授業づくりのための「あしやすスタンダード」がある。これらの活用をさらに充実させながら、授業改善をすすめていきたい。合わせて今年度本格実施となった「特別の教科道徳」の授業の充実も取り組みたい。

保護者アンケートの質問項目「宿題以外にも家庭学習をしているか」（評価2.5）、「一緒に本を読む機会をもうける」（評価2.6）に課題がある。家庭学習は学力向上への大きな鍵となる。「家庭学習の手引き」を保護者にも活用してもらうとともに、また、家庭でも子ども達が本に親しむ時間をもてるよう、保護者との連携・協働をしながら改善を図っていく。

②「芦安郷育」「小中一貫教育」を柱とした、豊かな体験活動の充実・展開をより推進し、地域や家庭との連携を深めながら、さらに特色ある学校づくりに努める。

教職員アンケートの「V. 学校の特色ある取組」においても、肯定的評価が高くなっている。小中9年間を見通した英会話教育の推進や、ユネスコスクール加盟校として、自然体験やESDへの取り組みを意識した「芦安郷育プログラム」を中心に、豊かな学習・体験活動が進められていることがうかがえる。

「芦安教育」「小中一貫教育」は保護者、地域の多くの方々、そして芦安中学校に支えられている。他者と関わりやふれ合いは、児童に夢やあこがれを育むものである。これからも、学校教育目標を見据え、児童の実態を分析し、育みたい児童生徒に近づいているか、しっかりとした総括をする中で、芦安小学校の学校デザインを特色づけている「芦安郷育」「小中一貫教育」のさらなる推進を図っていく。

地域や家庭との連携・協働の推進のためには、情報共有が大事である。教職員の自己評価「保護者・地域への願い・要望を聞く工夫と情報収集」では、評価が3.4と取組の余地を残す。これからは、ますます、保護者・地域と学校の目指す理念を共有することが求められる。信頼される学校であるため、さらに情報収集や情報共有に努め、家庭や地域との連携・協働を一層進めていきたい。